

| | |
|-----|-----------|
| 学校名 | 新座市立石神小学校 |
| 実施日 | 令和3年2月8日 |

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「**独自**」

| No. | 質問項目 | 自己評価 | 自己評価についての説明 | 学校関係者評価 | 学校関係者評価についての説明 |
|-----|---|------|---|---------|--|
| 1 | 学校は、児童の良さを認め、プラス思考の声掛けを積極的に行い、一人一人を伸ばそうと取り組んでいる。 | A | 職員が児童に対しプラスの声掛けを行っており、本校の児童が教師の声掛けによって学習意欲を高めていることが、前年度の県学調の結果からもわかっている。 | A | 「先生は自分のよいところを言うしてくれる。お母さんはダメということは多いがなかなかほめてくれない」と多くの児童が言っている。児童に対して称賛の声かけ、肯定的な評価を大切にする、自己肯定感を高める育成を心掛けている姿勢が公開授業を通して見受けられる。児童生徒の個性が尊重され、学習する中で「学んで知ることが、将来の自分を育て助けること」「確かな学力が、成長には必要であること」に気付く声掛けをお願いしたい。 |
| 2 | 学校は習熟度に応じた指導や、個別指導補足的な学習を行い、児童の基礎的学力を定着させるよう組織的に実践している。 | B | 学力向上委員会を中心に学力テストの分析を行い、具体的な手立てを学年ごとに考え、授業改善を行っている。放課後や休み時間を利用して、基礎学力をつけさせるために個別に学習支援している。また、中・高学年で学年を4クラスに分けた習熟度学習に取り組んでいる。授業以外で補習の時間を設けたり学生による支援を活用したりして学力の定着を図っていく。 | A | 朝学習の取組みや児童アンケート、少人数指導の実施等工夫が行われており、県学調の結果で、ほとんどの項目で県・市の平均値を上回っており成果が出てきている。また、一人ひとりに、学習意欲の向上が認められおり、個別的指導を評価したい。管理職が子供たちに足りないものを把握し、積極的に取り組んでいる。取組が基礎学力の定着につながることを期待している。 |
| 3 | 学校は、ICTを積極的に活用し、個に応じた指導を基盤に、児童が主体的に学習できるよう工夫している。 | B | 2学期から積極的にどの学年でもタブレット活用の様子が見られる。児童全員がログインできるようになり、活用できるようになってきている。教師間でスキルに個人差があるので、GIGAスクール構想に合わせ、研修会を実施して活用方法を学んでいく。 | B | タブレット等を活用した授業の取組が見られるものの、まだまだ児童の習熟度は低い。また、プログラミングまで指導できる教師に限られており、教師のスキルアップが必要である。学校と家庭が相互に協力して、学習の定着を目指していく、新たな教育の取組を積極的にすすめていただきたい。 |

評価項目「**組織運営**」

| No. | 質問項目 | 自己評価 | 自己評価についての説明 | 学校関係者評価 | 学校関係者評価についての説明 |
|-----|---|------|---|---------|---|
| 4 | 学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。 | B | 定期的に部会を開き、共通理解を図りながら進めている。感染症対策について、保健部、給食部、生徒指導部などが連携し、協議して対策を講じた。経験の浅い教員にも様々な主任を担当させていく。 | B | 各分掌が連携・協力して感染症対策を講じ、この難局を乗り越えた事実を評価したい。教職員が相互に協力・連携し、個々の役割を自覚して、校務分掌を有効に機能させ、組織の運営に参画している。同学年の教師間で指導方法・授業進行方法に格差が無くなるよう同質化・同レベル化が必要である。 |
| 5 | 学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。 | B | 学校評価の集計を迅速に行い、具体的な改善案を出して共通理解を図り、改善を行おうと努力した。提案したことが実施されるように、PDCAサイクルを行っていく。 | B | 学校評価(中間評価)の結果を受けて評価内容を検討し、具体的な改善策を実施しており、PDCAサイクルのチェック機能を有効に活用して継続的意識を持って「学習の質の改善」に努めている。。今後とも具体的な改善策の提案と実施を積み重ねる必要がある。 |
| 6 | 学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。 | B | 感染症対策について国や県、市の情報をもとに迅速に対応した。コロナ禍にありながら、緊急事態を想定した避難訓練を実施でき、職員一人一人が取るべき行動を把握できた。マニュアルを再度見直し、職員での共通理解を図りつつ、柔軟に対応できるようにしていく。 | B | コロナ禍で頻繁に変わる情報に迅速に対応したことは評価に相当する。また、日常に起こる事故や不審者の侵入等の緊急事態に備えて、危機管理マニュアルを作成し、危機管理体制を整え、全教職員が一致協力して取組む姿勢を継続的に維持している。地域の自主防犯・防災組織と連携しており、情報交換の他共同行動・訓練を行っている。マニュアルの制定・見直しは状況の変化に応じて常に行う必要があり、実際に訓練等を重ねそれに則して作成・改定する必要がある。 |

評価項目「学力向上」

| No. | 質問項目 | 自己評価 | 自己評価についての説明 | 学校関係者評価 | 学校関係者評価についての説明 |
|-----|---|------|---|---------|---|
| 7 | 学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。 | A | 課題に正対するまとめをする、見通しをもたせる、板書の仕方など、学習ルールについて具体的に話をする場を設け徹底を図っている。学力向上研修を通して、学力向上プランを共有できるようにしたい。教師間で差が無いように努力していく。 | A | 落ち着いた環境の中で授業が行われている。授業を受けるルールが示され、授業規律も安定しており、授業内容の質も向上し、学習意欲も向上している。県学調の内容が向上しており、学習指導の成果が顕れている。ただし、統一された指導ルールについては、教師一人一人の個人任せにならないように気を付けてほしい。 |
| 8 | 学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。 | B | 感染症予防のため、対話的な学びがしづらい状況であるが、職員は創意工夫して実施している。朝学習で「書く」時間を定期的に設けている。全ての授業で言語活動の充実を図れるよう、コロナ禍でできることを確認しながら実施していく。 | A | コロナ禍の限られた状況下で、静かに言語活動を意識した取組と工夫がみられる。各学年の発達状況に応じて、一步一步の着実な歩みを重視し、思考力、判断力、表現力を育み、授業の中に驚きの発見のある、新鮮な授業内容、授業展開が数多く生み出されており、その努力は高く評価できる。さらなる授業研究に取り組み、活力ある授業の展開をしていただけるとありがたい。 |
| 9 | 学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。 | B | 学年で教材研究したり、算数少人数指導や専科の授業など、専門性を生かした授業を実施したりして力をつけている。特別支援教育支援員の配置など、発達段階に応じた支援も行っている。今後は、研修の機会を増やして職員一人一人の授業力を向上させていく。 | B | 文部科学省や県・市の方針に従って、言語活動を重視した授業活動を展開し、各事項について真摯に取組んでおり高く評価できる。国・県・市からの方針を受け、学校運営の視点を考慮し、現状の分析を踏まえて、生徒の実態を深く考察し、学力の向上に努めていただきたい。特に、先生方一人ひとりが、児童一人ひとりに対して、「発達段階」や「どの程度の学力や能力を持っているか」を把握したうえで指導を行うことを期待したい。 |
| 10 | 学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。 | B | 英語講師と協力して充実に努めようとしているが、低学年が月に1回となり、十分に推進できているとはいえない。英語に関する掲示を工夫し、授業以外でも英語に触れる機会を設けて児童の関心が高まるようにした。担任一人でも学力の身に付けることができるよう、指導法について研修会を開催していく。 | B | 外国語学習への意欲を高める授業、わかりやすい授業に取り組んでおり評価できる。小学校は、英語教育のスタートの時期でもあるので、一人ひとりの学習意欲の向上を図り、国際社会を意識した人材を育てる学習指導研究をお願いしたい。また、外国語・外国語活動・プログラミング学習の定着・タブレット等・ICTを活用した効果的な指導実践を期待したい。授業時数は少ないが、内容の充実を期待する。 |

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

| No. | 質問項目 | 自己評価 | 自己評価についての説明 | 学校関係者評価 | 学校関係者評価についての説明 |
|-----|--|------|---|---------|--|
| 11 | 学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。 | B | 年度当初に比べ、挨拶ができる児童が増えてきたが、十分とはいえない。継続した指導と定着が必要である。「です、ます」など、場に応じた言葉遣いも指導を継続していく。 | B | 笑顔で明るく元気にあいさつする言葉を交わす姿が多く見られる。あいさつ運動は、校長を中心に教職員が一体となって取組み、学校、家庭、PTA、地域が、丁寧な言葉づかいを意識しており、真摯な言語遣いに対する周囲の評価も高い。校内だけでなく、地域の中で「大人と会えば挨拶をする」「『です、ます』と答えられる」よう指導が必要である。全職員が継続して指導し定着をめざしてほしい。 |
| 12 | 学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。 | B | 今年度から生活アンケートを月末火曜日に全校一斉に実施し、形骸化しないようにしている。いじめや意地悪な行為の把握に努め、いじめがおきたときには複数名で対応し、解消に向けて継続的に指導している。引き続き組織で対応していく。 | B | お互いが認め合えるよう道徳の時間の充実を図るとともに、自らの考えを進んで伝えたり、相手の立場を尊重して接したりすることができるよう指導している。校長自身がアンケートなどを通して児童一人一人の意見を聞いており、環境整備にも力を入れており評価できる。いじめの発生には必ず前兆があるので、学級担任が感性と注意力を傾注して教室運営を行う必要がある。 |
| 13 | 学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。 | B | 倫理確立委員会を月一回以上実施し、教職員事故の防止に努めている。職員の規範意識に個人差がある。服装、児童への呼名の仕方、言葉遣いなど、共通理解を図り徹底していく。 | B | 努力目標を基本にして、教員自らが時間を守り、教員自らが手本となるなど、きまりやルールを守る必要性を理解させながら親身に指導している。職員自身が手本となるよう、服装や言葉遣いに気を付けていただきたい。また、児童生徒の規律意識を高めるために、全職員が同じ方向を向いて指導することを期待する。 |

評価項目「健康・体力の向上」

| No. | 質問項目 | 自己評価 | 自己評価についての説明 | 学校関係者評価 | 学校関係者評価についての説明 |
|-----|---|------|--|---------|--|
| 14 | 学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。 | B | 感染防止のため、体力向上に向けた取組が十分できなかった。体育の学校研究に取り組み、研究授業は二学期に2回実施した。体育関係の行事ができなかったが、各学年で陸上大会や運動会等を企画したり、なわとびカードを作成して啓発したりした。コロナ禍でできることを見極め実施していく。 | B | 制約のある中、児童の笑顔を引き出し、体育の時間や休み時間を有効に使って、体力向上につながる指導を実施している。校内に各種体力測定の結果ランキングが掲示されており、児童は啓発されている。体力の維持向上は、健康的な生活を支え、学習意欲を維持する源ともなるので、体力の向上に視点を置いて丁寧な学習指導を一步一步着実に積み重ねて欲しい。 |

| | | | | | |
|----|---|---|--|---|--|
| 15 | 学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。 | B | 制約のある中で、家庭科を中心に食に関する意識を深める授業ができた。学校給食甲子園12代表に選ばれ、児童もまきこんだ活動ができた。保健の授業では薬物乱用防止授業も実施した。コロナ禍でできることを考え授業を実施していきたい。 | A | 栄養教諭を中心に食育に真摯に取り組み、計画的に健康教育を推進している。学校内の掲示ポスターからも、食育、健康教育に力を入れて、学校全体で取り組んでいる姿勢が伺える。学校給食甲子園で準優勝し、地産地消を含め地産食材の重要性を身につけさせる教育に有効であった。学校農園で児童が実際に種をまいて野菜を育てて食することも大切にしている。これからも家庭と学校が連携し、総合的に食育環境を整備して欲しい。 |
|----|---|---|--|---|--|

評価項目「保護者・地域との連携協力」

| No. | 質問項目 | 自己評価 | 自己評価についての説明 | 学校関係者評価 | 学校関係者評価についての説明 |
|-----|--|------|--|---------|--|
| 16 | 学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。 | A | 授業参観や行事ができないため、保護者と直接顔を合わせてコミュニケーションを図る機会が減ってしまった。保護者や地域の意見を学校として取り入れようと努力し、PTAと協議しながらより良い学校づくりにむけ改善案(PTA組織の再編成、会費の削減など)を作成した。今後も保護者や地域の会議等に参加し意見を聴きながら対応していく。 | A | コロナ禍で直接接触することが難しくなった中、保護者や地域住民の考えを把握し、学校に寄せられる期待や声に真摯に応えて、学校の活性化に努めている。地域の自主防犯・防災組織と常に連携が取れており、密を避けての合同会議や情報交換会に参加し、また防犯の声掛け運動・登校指導を積極的に行われた。 |
| 17 | 学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。 | A | 休校中には、職員が児童へのメッセージや課題を作成して配信した。ホームページを毎日更新し、保護者に情報提供している。紙媒体のものと併用しながら継続して発信していく。 | A | 各種たよりを定期的に発行し、地域と連携して配付したり学校内の掲示板にわかりやすく掲示したりして情報提供が明確にされている。今年度からホームページが毎日更新され、「特別な日だけでなく、日常的なことを知ることに親しみを感じられる」と耳にする。 |
| 18 | 学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。 | B | 学校応援団の方を中心に、登下校の見守りや図書室の整備などよく取り組んでいる。近年行われていなかった除草作業も実施できた。声かけ運動は今年度感染症対策で中止となっている。不審者対策はできていない。現状で何ができるか模索していく。 | B | 今年度は、コロナ禍で中止となったものも多々あったが、保護者、地域住民、PTAとの連携が図られ学校応援団として地道な努力を積み重ね、不審者対策、清掃美化活動等々が継続的に行われていた。コロナ禍で、学校応援団が活動しづらい状況だがコロナが収束して思う存分活動ができるようになった時に、すぐ動き出せるよう、組織をしっかりと維持してほしい。 |